燕市下水道事業経営改善戦略（概要版）

計画期間：令和7年度～令和16年度（10年間）
対象事業：公共下水道事業、特定環境保全公共下水道事業

令和7年3月 燕市

第1章 はじめに

本編3～4ページ

策定の趣旨、計画の位置づけ、計画期間等について記載

－策定の趣旨－

人口減少に伴う料金収入の減少、施設の老朽化に伴う改築更新投資の増大などにより、下水道事業を取り巻く経営環境が厳しさを増していることから、現行の経営戦略を全面的に見直し、さらなる経営基盤の強化と財政マネジメントの向上の実現に向け策定しました。

第2章 事業概要

本編5～28ページ

事業の現況や、経営比較分析表を活用した本市の経営状況の分析と課題を記載

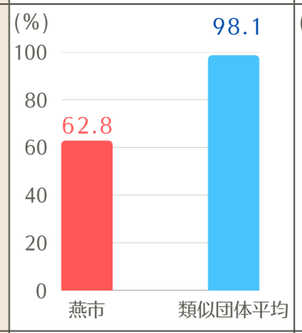
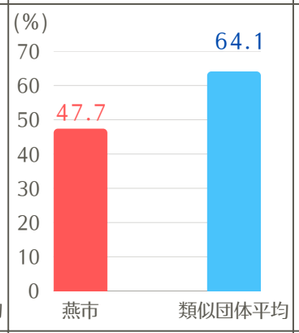
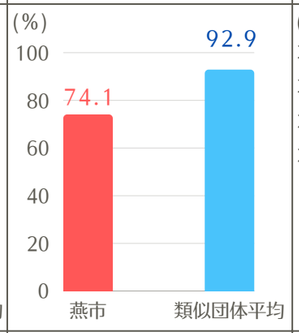
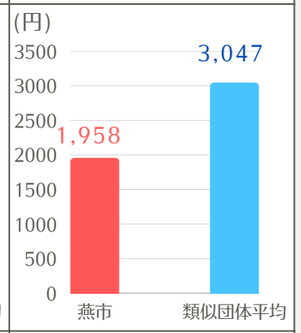
－事業の現況－

本市の下水道は燕処理区と西川処理区の2つの処理区域で構成されています。燕処理区は単独公共下水道として燕市下水終末処理場で下水を処理し、西川処理区は、新潟県が設置する西川流域下水道に接続され、新潟県西川浄化センターで下水が処理されています。

－経営状況分析表から見た本市の現状と課題－

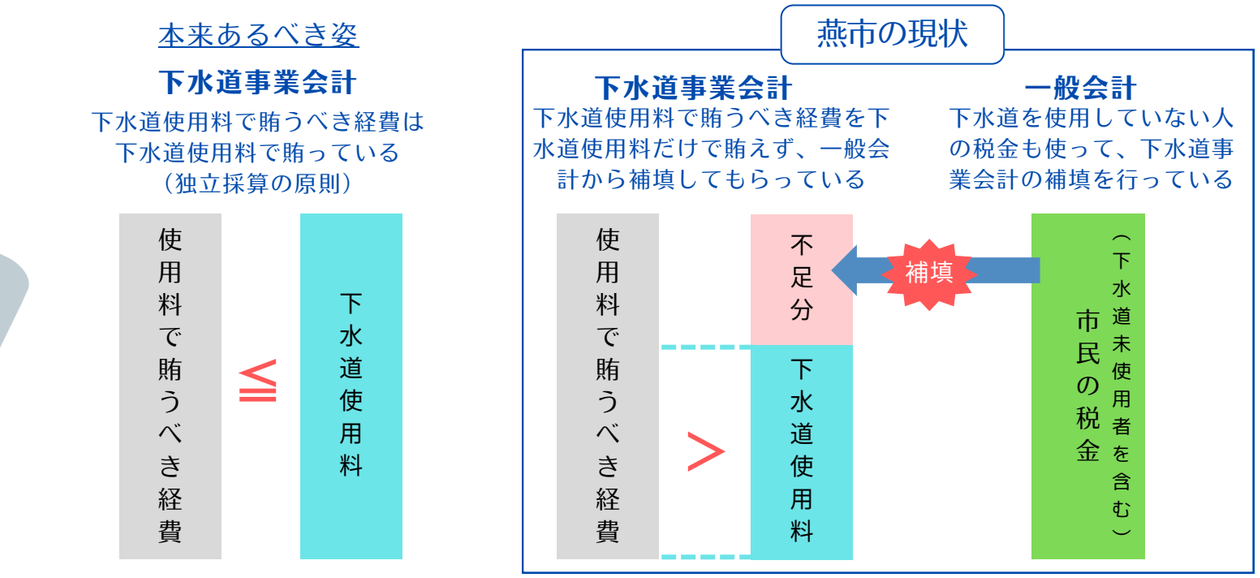
経営比較分析表を活用した現状分析を踏まえた本市の課題は下記のとおりです。

（令和4年度実績値）

項目	経費回収率	施設利用率	水洗化率（接続率）	家庭料金
用語解説	使用料で回収すべき経費を、どの程度使用料で賄えているかを表した指標	施設・設備が一日に対応可能な処理能力に対する、一日平均処理水量の割合	処理区域内人口のうち、実際に水洗便所を設置して汚水を下水道で処理している人口の割合を表した指標	条例における汚水の排除量20㎥の場合の税込の下水道使用料月額
現状	・100%以下で、類似団体平均より低い。 ・使用料で賄うべき経費を使用料で賄えていない状態。	・利用率が半分程度で、類似団体平均より低い。 ・処理場の処理能力に対して流入する水量が少ない。	・類似団体平均より低い。	・総務省基準以下。 ・類似団体平均より低い。
各種平均との比較				
課題	**低い経費回収率** 100％を下回っているため、適正な使用料収入の確保及び汚水処理費の抑制など、経費回収率の向上に向けた取組が必要。	**低い施設利用率** 施設規模が過大となっている状態であるため、下水道整備の早期概成や水洗化率の向上及び他施設との共同化等の取組が必要。	**低い水洗化率** 水洗化率向上への取組が必要。	**適正でない下水道使用料** 適正な使用料の検討が必要。

一般会計は市税などの収入を基に、教育・福祉や道路整備などの市の基本的なサービスを行う会計のことをいいます。
一方、下水道事業会計は、その事業に伴う収入によってその経費を賄い自立性をもって事業を継続していく「独立採算」が原則となっています。
そのため、一般会計とは別の会計区分で経理をしています。

燕市の現状を図式化！



第3章 将来の事業環境

本編29～37ページ

人口や使用料収入などの将来の事業環境を記載

－将来の環境予測－

令和10年度以降、処理区域内人口や水洗化人口は減少に転じ、以降減少傾向が継続。それに伴い、使用料収入も減少していく見通し

－組織の見通し－

事業量に適した人員管理を実施

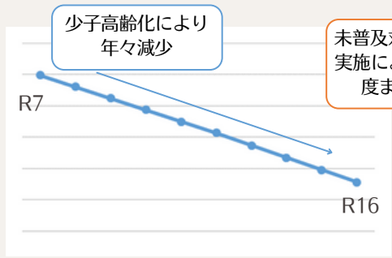
－施設の見通し－

下水終末処理場は今後10年程度で更新需要がピークを迎える
管きょ施設は令和27年度以降、改築・更新需要が高まる

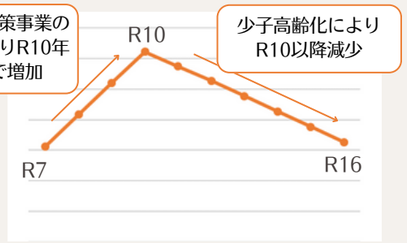
－収入の見通し－

一般会計繰入金は増加傾向となる

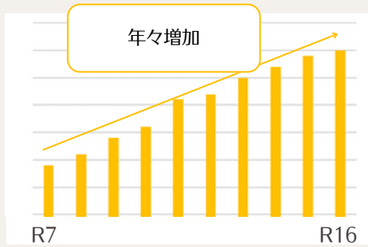
－行政区域内人口の傾向－



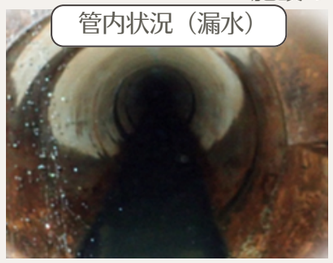
－処理区域内人口、水洗化人口、使用料収入の傾向－



－一般会計繰入金の傾向－



－施設の状況（一例）－



第4章 将来の経営課題

本編38ページ

第2章及び第3章の内容を踏まえた経営課題について記載

－課題①－

本市の実質的な使用料単価は総務省基準の150 円／㎥ （税抜）を下回り、その差額を一般会計繰入金で補填している状況。

－課題②－

経費回収率は100 %を下回り、使用料で賄えていない経費は一般会計繰入金で補填。

－課題③－

一般会計繰入金総額は基準内繰入金が増加傾向となり、仮に令和6年度の一般会計繰入金総額を上限に将来推計を行った場合、令和8年度以降収益的収支の当期純利益は赤字となる。

－課題④－

一般会計繰入金の増加により市民サービスに影響が及ぶ可能性がある。

第6章 投資・財政計画（収支計画）

本編42～60ページ

経営目標達成に向けた投資・財政計画により、下水道経営の健全化に向けたロードマップを記載

－投資・財政計画（収支計画）－

下水道使用料の見直しを含めた財政シミュレーションを実施しました。

本計画では、経営目標を達成するとともに、資金残高の一定水準の確保など、本市が目指すべき状態に合致している財政シミュレーションを採用しました。

－下水道経営の健全化に向けたロードマップ－

下水道経営の健全化に向けて、適正な下水道使用料を検討し、使用料の改定を目指すほか、経営目標達成のためのロードマップ策定しました。

－下水道使用料改定に関する市の方針－

策定委員会の答申を踏まえ、下水道使用料を改定する際は、下水道使用者の急激な負担増加とならないよう、複数年にかけて段階的に使用料改定を実施します。

▼下水道経営の健全化に向けたロードマップ

項目＼年度	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
経営改善戦略見直し					→					→
使用料の検討	→				→					→
使用料の改定		→				→				

経営目標	項目＼年度	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
		目標値				中間目標値	目標値				最終目標値
	経費回収率	61.7%	65%以上	70%以上	75%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	100%以上
	他会計補助金（R5比）	10%以上削減	20%以上削減	30%以上削減	40%以上削減	50%以上削減	60%以上削減	70%以上削減	80%以上削減	90%以上削減	ゼロ

第5章 経営の基本方針と目標

本編39～41ページ

第4章の経営課題等を踏まえ、経営の基本方針及び経営目標を記載

－基本方針－

経営の安定化

既整備地域への接続促進、し尿受入整備、当期純利益の確保、適正な使用料設定や一般会計の負担軽減等に努めます。

下水道未普及の解消

令和10年度までの集合処理区域内の概成を目指し、下水道整備を進めます。

施設管理の最適化

燕市下水道ストックマネジメント計画に基づき、施設・設備の改築更新に努めます。

－経営目標－

項目	中間目標 令和11年度	最終目標 令和16年度
経費回収率	90%以上	100%以上
水洗化率	77.5%以上	80%以上
当期純利益	黒字の維持	黒字の維持
他会計補助金（一般会計補助金）	50%以上削減	ゼロ

「経営の安定化」に向けた具体的な取組（一例）

実施済みの取組

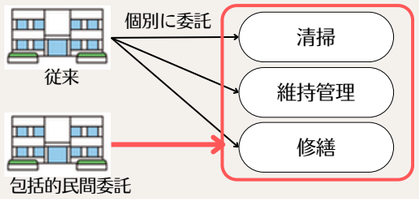
－下水道フェア－

処理場探検

缶バッジ製作体験

－マンホールカード配布－

－官民連携による業務効率化－



まとめて委託し、業務効率化、コスト削減を実現

今後実施または検討する取組

－下水道使用料の適正化－

下水道経営の健全化に向けたロードマップに準じて使用料の適正化を図ります。

－その他－

- ウォーターPPPの導入検討
- 新潟県の広域化・共同化計画への参画
- DXや創エネ技術の導入検討

第7章 経営改善戦略の事後検証、改定等に関する事項

本編61ページ

進捗管理や効果検証を記載

- 計画期間の中間にあたる令和11年度に中間評価を行い、場合により見直しを行います。
- PDCAサイクルに基づき実施目標の達成状況を管理します。

燕市下水道事業経営改善戦略
令和７年３月

燕市都市整備部下水道課
〒959-0295　新潟県燕市吉田西太田1934番地
TEL.0256-77-8293（直通）　FAX.0256-92-2118
【URL】https://www.city.tsubame.niigata.jp
【e-mail】 gesui@city.tsubame.lg.jp